

ワークショップWS1-6 放射線治療後の合併症に対する高気圧酸素 治療の有効性

土居 浩¹⁾ 荒井好範¹⁾ 荒井孝至¹⁾ 岡村康之¹⁾
朝本俊司¹⁾ 広谷暢子²⁾ 高柴国治²⁾

1) 牧田総合病院 脳神経外科
2) 牧田総合病院 高気圧酸素治療センター

【はじめに】

放射線治療の多様性が叫ばれ、以前に比しガンマーナイフ、サイバーナイフ、重粒子線治療、陽子線療法を含め今までの放射線治療と異なる治療がなされて安全性が増しているといわれているが、それでも副作用は存在する。今回筆者前任施設および現施設での治療に関して報告をする。

【対象, 方法】

脳・脊髄・神経放射線壊死に関しては、11例、乳がんに対する放射線治療後の皮膚壊死に関しては8例、心臓カテーテル治療後皮膚壊死は1例、子宮癌に対する放射線治療後の子宮腔部びらんや膀胱腔瘻の症例が3例。肺がん放射線治療後の気管食道瘻が2例、舌がん、咽頭がんなどに対する放射線治療後の咽頭潰瘍・下顎骨骨髓炎は14例、放射線性出血性膀胱炎21例に検討を加えた。高気圧酸素治療(HBO)は2~2.4ATA90分の治療を行った。

【脳・脊髄・神経放射線壊死】

この症例のうち9例は脳・神経放射線壊死であった。

5例は膠芽腫の術後放射線療法を行った症例であった。この5例に対し高気圧酸素治療(HBO)10~20回施行したが、原疾患のコントロールのこともあり、効果は得られなかった。ただし創感染や、一部脳内の感染に対しては効果が認められた。

4例はAVMに対するガンマーナイフ後の放射線壊死、耳鼻科の癌に対し陽子線療法を行い、側頭葉に放射線壊死を呈した症例、グロームス腫瘍に対して重粒子線療法後の延髄壊死の症例、斜台脊索腫に対する重粒子線療法による視神経障害であった。4例とも効果は得られなかった。一方脊髄放射線壊死2例に関しては若干違った印象を得た。咽頭がんの頸椎転移にサイバーナイフ照射後の脊髄壊死に関しては、四

肢麻痺が壊死組織除去しHBO施行し、一時的には麻痺が改善し、ADLの改善を半年間保持できた。また上部胸椎の線維肉腫に対しての放射線療法後脊髄壊死に施行したHBOにて麻痺の進行が4年間ほど変化無く経過を終えた。しかしHBOの回数は100回以上であった。

【皮膚・粘膜壊死】

乳がんに対する放射線治療後の皮膚壊死に関しては8例、心臓カテーテル治療後皮膚壊死は1例であったが全例ほぼ完治し、HBOの効果は絶大であった。HBO回数は7~25回で保険適応の30回以内の治療であった。

子宮癌に対する放射線治療後の子宮腔部びらんや膀胱腔瘻の症例が3例。これもすべて緩解したが、膀胱腔瘻の症例は瘻孔閉鎖後も年間30回HBOを4年間継続してフォローしている。

【気管食道瘻】

肺がんに対する放射線療法後の2例を経験、腺がんの症例(肺がんは放射線療法で完治とされていた)に対しては18回のHBOを施行して1回退院後、瘻孔は同じであったが2回目に再度HBO15回を1クールとして施行。退院後のCTで瘻孔閉鎖を得て、胃瘻ではなく経口食可能になり、通常的生活を5年経て再発は認めていない。一方小細胞がんの症例は1クール終了後退院。2クール目の前にがんの再発で完治は得られなかった。

【舌がん, 咽頭がんなどに対する放射線治療後の下顎骨骨髓炎・咽頭潰瘍】

全例HBO回数は20回以上で、中には慢性瘻孔が皮膚に出現し、数年間に渡り施行した症例も多い。根治は難だが、痛みに関して全例良好な結果が得られた。このうち2例は咽頭潰瘍が著明で、1例はHBO30回施行後、若干経口から食事摂取可能になった。

【放射線性出血性膀胱炎】

21例全例出血の著明な減少を認めた。効果を認めたHBOの回数は20~30回であった。しかし11例は現在も週1~2回継続を行っている。

【結語】

今後も症例を重ね、HBOの効果を検証予定である。